

## 「田中とも江さんのように、強い自分になりたい」

国際医療福祉大学院 作業療法分野 M1 大場 和美

私は福岡県に住んでいるのだが、「抑制廃止福岡宣言」というものを知らなかった。講義の中で聞き、驚いてすぐに調べて知った。また、田中とも江さんが福岡県出身であることをお聞きし、口調が福岡弁であられることもとても嬉しかった。普段、「東京に比べて福岡は・・・」とつい思ってしまったが、「福岡もやるなあ」と思い、同時に「自分が頑張っていないのは福岡のせいではないな・・・」と逃げ道を失ったような気もした。

福岡弁で語られる田中さんのお話しは、自分も医療者の1人としてとても衝撃的だった。「抑制は100パーセントNOです!」「どんな例外もありません!」と言い切られる強い姿が信じられなかった。

私も19歳の時に行った実習先の病院で抑制を見てとてもショックだった思い出がある。看護婦に突き飛ばされて廊下でおむつを替えられている姿、監視され笛で管理されながらの入浴など、腹が立ったし、悲しかった。

しかし私は「精神科には就職しない」という方法でその現実から逃げた。

それどころか、数年後には「抑制は仕方がない」と思うようにさえなっていた。今日の講義の中で、「命を守るためには仕方がない」という大義名分のために、自分はなんということをしていただろうと気づき、ショックだった。

でも実は、医療者1人ひとりには心の底では気付いているのだと思う。1人では耐えられないから「命を守るためには仕方がない」とみんなで言い合い、責任を転嫁し合い、そしてみんなで犯罪を犯しているのだと思う。正しいことだと思いつつもしているのだと思う。

それも、日本の医療の体質なのだとしみじみ思い、怖くなった。

田中さんの強さはすごい。「縛ってはいけない」当たりまえのことなのだけれど、それをこの医療の世界の中で「100%」と言い切ること、実行し続けることのすごさを思うと、自分が情けなくて涙が出る。

田中さんのようになりたい。自分が「正しい」と思ったことを言い続けることができる強さがほしい。いや、19歳の時のことを思い出せばできるはず! 頑張れ自分!

と思った。遅くはないはず。今からでも、がんばりたい。